

平成29年度第2回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 平成30年3月1日（木）13時30分～15時15分

場 所： 草津市役所4階行政委員会室

出席委員： 小沢委員、塚口委員、三浦委員、河前委員、則武委員、神門委員、
喜田委員、小枝委員、関川委員、樋口委員、苗村委員、

欠席委員： 藤田委員、梅木委員、橋口委員、北村委員、廣田委員、中野委員、
村上委員、吉川委員、宮地委員

事務局： 山本副市長

【健康福祉部】 西部長、富安理事、杉江総括副部長、
小川副部長、千代副部長

【環境経済部】 竹村部長 【都市計画部】 山本部長

【健康福祉政策課】 増田課長、山田専門員、田村専門員

傍聴者： 1名

1. 開会

【副市長】

みなさまこんにちは。平成29年度第2回草津市健幸都市づくり推進委員会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

委員の皆様には、大変お忙しいところ、御出席をいただき、厚くお礼申しあげます。

さて、昨年12月13日に厚生労働省より公表されました「平成27年都道府県別生命表」において、都道府県別の平均寿命が発表され、滋賀県は、男性が全国で最も高く81.78歳となり、女性は全国4位で、87.57歳でありました。県民のみなさまの平均寿命が全国と比べて上位となったことは、大変喜ばしいことではありますが、それと同時に、健康で活動的に暮せる期間である「健康寿命」を延ばし、平均寿命と健康寿命の差を短くしていくことも更に重要であると考えております。

また、先日発表されました滋賀県の平成30年度の予算概要におきましては、「健康しが」予算として「健康」に重点を置いた予算編成が行われており、滋賀県においても今後、「健康」に関する取組が重点的に推進されることと思われまます。

本市におきましては、ちょうど一年前に、委員の皆様のお力をお借りしながら策定した「草津市健幸都市基本計画」に沿って、市の総合政策として健幸都市づくりの取組を進めているところであり、健康の分野で県内の他市町を牽引していきたいと考えております。この健幸都市は、行政だけで実現できるものではなく、市民の皆様をはじめ、大学や企業・団体等の皆様とも連携しながら進めていくことが重要であり、来年度も更に力を入れ取組を進めていきたいと考えております。

本日は、このあと来年度の健幸都市づくり関連事業の取組内容および今年度の取組状況についてご報告させていただくこととなっております。これについて委員の皆様方に、それぞれのお立場から「健幸」づくりの取組への連携や事業の実施手法など、「健幸都市」の実現に向け、忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。結びにあたりまして、本日お集まりの皆様方の御健「幸」を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

【事務局】

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

2 議事

1) 健幸都市づくり関連事業の平成30年度の主な取組について

【事務局】

<資料1に基づき、説明>

【主な質疑・意見】

【委員長】

資料1では平成30年度の健幸都市づくり関連事業の主な取組内容についてまとめていただいた。今、「まちの健幸づくり」の中の健幸づくり拠点整備事業の中でBIWA-TEKUアプリの説明があった、このアプリについて具体的な中身を聞かないとイメージがつかめないと思うので、議論の先に事務局よりアプリについての説明をしてほしい。

【事務局】

<資料3に基づき、説明>

【委員長】

先ほど説明いただいた平成30年度の健幸都市づくり関連事業の主な取組内容とBIWA-TEKUアプリについて説明いただきましたが、御意見や御質問などございますか。

【委員】

アプリについて、健診を受診したことによりポイントが貯まるという説明であったが、健診の受診情報は機微な情報であり個人情報であることから、ユーザーは入力をためらうと考えられるが、どこまでの情報をアプリに入力するのか。

【事務局】

健診の受診情報については、健診結果の内容ではなく、受診日やどの病院で受診したかのみだけであり。受診結果の個人情報を入力する必要はない仕組みとしている。

【委員】

アプリについて、スマートフォンを持っていない高齢者は、どのように参加すればよいのか。また何故アプリにする必要があったのか。

【事務局】

本市では昨年度から実施している紙による健幸ポイント制度があり、平成30年1月からはアプリと併せて紙ベースで運用を行っているため、スマートフォンをお持ちでない方などについては、紙ベースでの健幸ポイント制度に参加していただける。

またアプリを開発した理由としては、昨年の12月末まで紙ベースでのみ健幸ポイント制度を実施していたが、利用者の分析を行うと60代・70代の方が利用していただいている状況であった。この健幸ポイント制度を、若い世代の方も含めて更に多くの方に、身近で気軽に健康づくりのきっかけづくりとして利用していただきたいとの考えから、県内市町と協会けんぽと連携しアプリを開発したもの。草津市民も含めて県民のみなさまの健康づくりに役立てられたらと考えている。

なお、アプリのリリースから一月半経った状況を分析すると、草津市での利用者の割合は、30代から50代の方の利用が多く、若い世代の方にも気軽に健康づくりのきっかけづくりが広がってきていると思う。

【委員】

健康推進員としては、特定健診を受診しましょうと進めているところであるが、なかなか受診率が上がらない。このような状況の中でこのようなアプリがあると、ポイントを貯めてインセンティブがもらえることから、健康づくりの良いきっかけとなると思う。

別の質問になるが、ビワイチ観光推進事業の説明があったが、滋賀県と連携してビワイチウォーキングをさせていただいている。琵琶湖の周辺を歩いていると湖北の方の道路については、自転車の方が、どの道がビワイチコースか分かるように路面標示で誘導されていたが、草津市の湖岸周辺については、路面標示などは見受けられないことから、参考にしていただければと思う。

【委員】

特定健診の受診率の低さについては、昔と比べると特定健診の受診項目に魅力がなくなってきたと思う。

アプリによる特定健診の受診率の向上を図るのもよいが、草津市として独自に受診項目を追加するなど魅力的なものとしてはどうか。

【事務局】

アプリについては、ここにいる方々は健康に関心の高い方ばかりであるが、健康に無関心の方に何かしらの形で健康づくりのきっかけづくりになればという思いで開発してきた。

また健診については、昨年度まで国保の被保険者の方は、個別健診の病院での受診のみだったが、今年度からは、協会けんぽと連携し、協会けんぽが実施する健診会場で国保の被保険者の方も受診できる集団検診も可能としたことや、同じ会場でがん検診も受けられるなど少しずつであるが、魅力ある受診環境を整えてきたところ。来年度も引き続き、協

会けんぽや健保組合と保健事業については、連携を深めていきたいと考えている。

【委員】

アプリについて、今年の1月からリリースされたということで健康づくりのきっかけとなる良いものができたと思っているが、いつまで続くものなのか。また、アプリをどの規模まで広げていきたいと考えているのか。

あと、企業参画も可能とのことであったが、企業としてアプリにどのような事ができるのか。民間企業が参画するメリットはあるのか。

【事務局】

アプリの事業がいつまで継続するのかということについては、行政のことなので予算がつかないと事業が継続できないことから、いつまでという約束はできないが、可能な限りアプリを拡大しつつ事業を継続していきたいと考えている。規模については、県内の民間企業や団体と連携しながらアプリの普及と拡大をしていきたい。

企業が参画した場合どのような事ができるのかについては、企業などが開催されるイベントの登録や、企業などが持つておられるウォーキングコースを登録しそれぞれポイントの対象とすることや、協賛品をもらいアプリ利用者に抽選で提供するなどができる。

民間企業が参画されるメリットとしては、従業員の健康づくりに活用いただくとともに、イベント等を登録いただくとイベント自体や企業名も掲載されるなど啓発につながるものと考えている。

【委員】

資料1の4ページに国体に向けて市立プールの整備があるが、このプールを市のスポーツ振興のために利用していくという計画はあるのか。

【事務局】

今後の整備に向けたスケジュールとしては、これからプールの活用計画を策定するところ。平成36年度に滋賀の国体が開催されるので、その前年度の平成35年度にはプレ大会が開かれるとのことから、平成34年度末までにプールを完成させたいと進めているところ。当然、草津市にプールが出来ることから、草津市民の健康増進に繋がる利活用にしていきたい。

【委員】

資料1の4ページの健幸づくり拠点整備については、ますます市の健康づくりが進んでいき良いことだと思っている。各まちづくりセンターに健幸チェックコーナーを設置するということだが、各まちづくりセンターでは、健康づくりへの力の入れ方がまちまちであることから、市が丸投げをすることではなく、ある程度指導していただき市民の方がたくさん利用してもらえるようにしていただきたい。

また、病気への予防として健診の受診勧奨や介護予防としてロコモ運動などされておられるが、これらの予防として健診だけでなく、体力診断も取り入れてはどうか。静岡大学では、自立体力測定というのがあることから検討いただきたい。

【事務局】

健幸づくりの拠点整備については、まちづくりセンターを各学区の健幸拠点としてはどうかと考えている。体組成計や活動量計などを置き、アプリ利用者がこれらの機器で測定を行うと、測定の結果をアプリと連動させ自身の身体の変化の「見える化」を図る仕組みを構築しようと考えている。

介護予防については、現在本市では65歳以上の方を対象に生活機能チェックを行っている。基本チェックリストとして25項目に答えてもらうものとなっており、昨年と比べて今年はどうのように身体が変化しているかという質問になっており、体力診断というものにはなっていない。

【委員】

来年度の主な取組の中では、身体の健幸への取組は見取れるが、心の健幸はどのようなものがあるのか。

【事務局】

資料1の9ページに「文化振興プログラム推進」がある。文化というものを身近に広めていき、市民の方が色々な文化に触れていただくことで、心の健幸に繋がるものだと考えている。

また、8ページに「子育て支援拠点施設運営」があるが、南草津駅前に子育ての中核拠点を開設し、保護者の子育ての不安解消を図ることとしていることから、これも心の健幸に繋がるものだと考えている。

【委員】

障害分野の立場から発言させていただくが、現在富山方式という先進的な取組があり、障害者の居場所づくりも必要ではないかと考える。特養の中に作業所を併設するなど、要介護者や高齢者がおられる場所に、地域の子どもも入れるように一体的に施設を整備するといった共生社会づくりが進められている。

市内では、草津宿本陣の近くに「出会いのひろば」を開設している。ここに障害を持った方や高齢者などが参加されている。また、ここでは全国的にも有名な方で「たこやきおじさん」と呼ばれている方が、地域の子どもたちに無料でたこやきを振る舞われているなど、まちなかに多世代が交流できる場所を提供している。ぜひ草津市においても、共生社会として交流できる場をたくさん設けていただきたい。

【事務局】

今回は予算概要に掲載している健幸都市関連事業について紹介させていただいており、他にも細かい事業はたくさんあり、過去から継続している事業もある。共生社会の推進については、このような中で手法を変えていくなど、新たな事業として今後取り組んでいけたらと考えているところ。

【委員】

子育てしている立場からすると、子育て中は子どもを優先してしまい、親が運動する時

間が少なくなり運動不足になりやすい。大津市では、子育てシェアリングエコノミーといった地域全体で子育て世代を支える仕組みがあり、子どもの送迎や託児などインターネットを活用しながら顔見知りの方と頼りあったり、ハウスキーパーに家事をお願いしたりすることができる。このような取組を、草津市では健幸と絡めて進めていくと、健幸と子育てと両立できる取組になると考えるがどうか。

【事務局】

本日は子育ての所管の者が来ていないので詳しい事業は説明できないが、健幸都市づくりは高齢者だけではなく、市の総合政策として進めていくことから、今後も子育て世代についても健幸の視点を入れた施策を進めていく必要があると考えている。

【委員】

意見として、健幸という重要なテーマを進めることはとても難しいと思っている。すぐに各事業の結果を求めてしまいがちになってしまうが、そうすると方向性を見失ってしまう。今みなさんの意見を聞いていると、それぞれの立場からの意見としては妥当であると思う。健幸都市づくりという大きな施策は素晴らしいことであることから、市の限られた予算の中で展開していくとなると、すぐに結果を求めるとなると難しいことから、一歩一歩みなさんと協力しながら、可能な限り進めていきたいと考えている。

【委員】

先ほど、たこやきを振る舞われておられ子どもたちの交流の場所があると紹介があったが、草津市では地域の子どもたちに、このような無料や低額で食事を提供するといった子ども食堂はいくつくらいあるのか。

【事務局】

把握している範囲で、草津市内で子ども食堂を、定期的にやっているところはない。不定期に社会福祉法人などが子ども食堂や居場所づくりとして開催されている。

【委員】

滋賀県の平均寿命が上位となったことについて、健康推進員さんが地域に出て健康づくりを広めていただいた成果であると思っている。また、滋賀県は医療体制が比較的整っていることや、社会参加される方が多く、人と人との交流が長寿に繋がっていることが一因だと考えている。草津市は健康づくりの施策を先進的に進めておられるのが、市民の健康づくりを継続に行っていただくことは簡単なようで難しいことから、これまでの健康づくりの進め方にプラスして今後も期待したい。

2) 平成29年度の健幸都市づくり関連事業の主な取組状況について

【事務局】

<資料2に基づき、説明>

【主な質疑・意見】

【委員長】

来年度にはいろんな取組を進められるが、事業について市民の方に情報が行き届かないと意味がないので、広報などの啓発はしっかりとして欲しい。

また、健幸都市基本計画では、草津市が「健幸なまち」だと思える市民の割合を増加させることが全体目標となっていることから、市民の方にも草津市が健幸都市づくりを進めていると知っていただく必要もあるので、市としても我々としても健幸都市づくりの啓発を進めていきたいと思う。

【委員長】

他御意見等ないようなので、本日の議題は以上である。議事録の中身については事務局でとりまとめをしたうえで、私の方で中身の確認をする。ご一任いただいでよろしいか。

事務局から連絡事項があればお願いします。

【事務局】

イベントなどの広報・啓発については、来年度は工夫していきたいと考えている。皆様方がされているイベントについても、行政の方から周知できる分については周知させていただきたいと考えている。何度もお伝えしますが、健幸都市づくりは、行政だけで実現できるものではなく、市民の皆様をはじめ、大学や企業・団体等の皆様とも連携しながら進めていくことが重要だと考えておりますので、先ほどのアプリにつきましても、健幸づくりのきっかけとなる手法の一つでありますので、皆様の御協力をいただければと思っています。

3. 閉会
